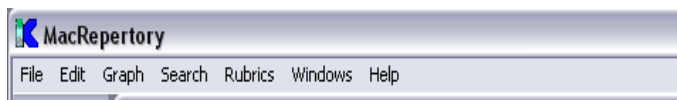


## 1. コンピューターレパートリーの使用法

### ◆MacRepertory マニュアル

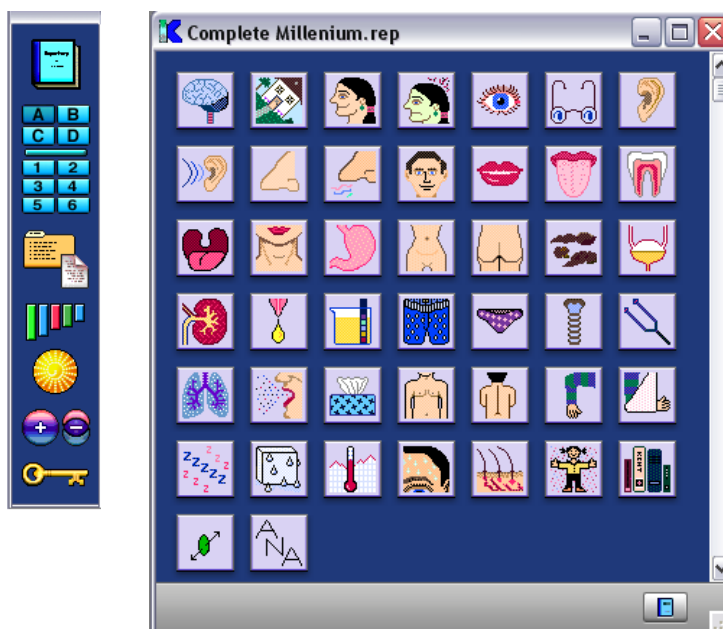
MacRepertory を開けると、3つのものが見えます。

- ・メニューバー；



- ・ツールパレットは、画面左側にあります；

レパートリーウィンドウ（開いているレパートリー名はバーの上に表示されます）の図では The Complete Millenium. が開いています。



#### ツールパレット

ツールパレットの機能は、クリックすることにより、各ウィンドウを開いたり、アクティブにすることです。

上からレパートリーウィンドウ、ルブリッククリップボード画面（ABCD&123456）、パイシャントチャート画面（患者さんの記録用）、レメディグラフ画面、ファミリーグラフ画面、エリミネーション画面、キーノート画面とノート画面があります。

・いちばん上の青い本をクリックするとレパートリー画面が活性化します（初期設定では MacRepertory を開いたときに自動的に開くように設定されています）。



• ルブリッククリップボード (RC) Rubrics Clipboard (RC) Window.は、  
 ABCD と123456の10あり、同じように使用できます。



• ファイルフォルダーのアイコンはペイシヤントチャート画面 Patient  
 Chart Window.です。



• 小さな紙のアイコンは、ノートが開きます。Notes Window.



• カラフルな棒グラフは、レメディグラフ画面 Remedy Graph Window. で  
 す。グラフを示すためには、グラフにしたいルブリックの入っている RC  
 を活性化させておきます。



• 丸いアイコンはファミリーグラフです。Family Graph Window.



• エリミネーション画面をアクティブにするには、プラスとマイナスの  
 アイコンをクリックします。Elimination Window, + or -



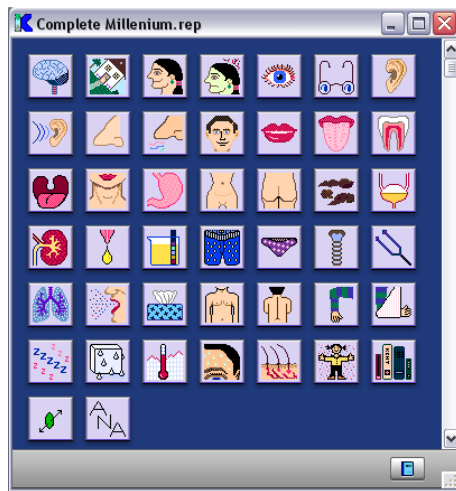
• 鍵アイコンはキーノート画面が開きます。



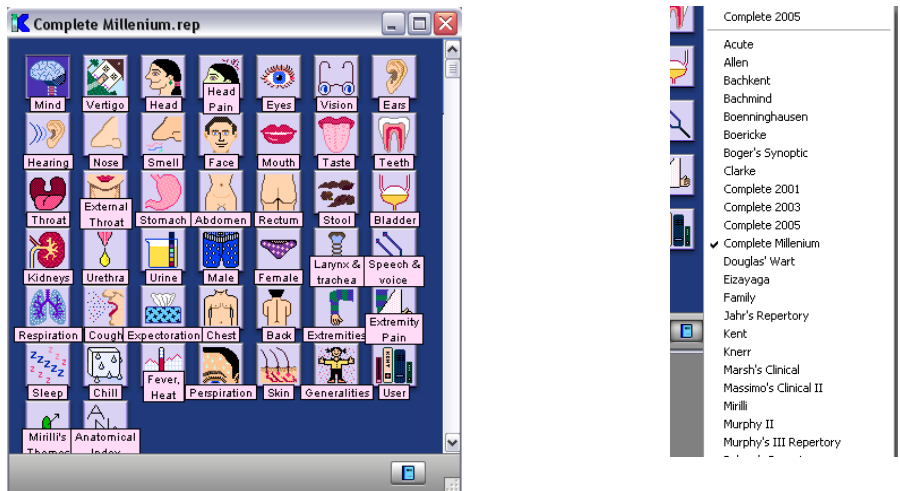
### レポートリー画面

MacRepertory を開くと、まずレポートリー画面が立ち上がります。これはメインの画  
 面になります。もし開かなかつたり、閉じてしまった場合には、青い本のアイコンをク  
 リックすれば再び開きます。

注；ルブリックを選んでクリップボードに入れるときには、かならずレポートリー画  
 面を活性化させてください。



レポートリーに示されるアイコン  
 は各セクションを表しています。いち  
 ばん上のスペースバーに今開いている  
 レポートリーの名前が出ています。セ  
 クションのタイトルを見たい場合には、  
 スペースバーを押してください。また  
 はプログラムのいちばん上のバーにあ  
 る File をクリックして、Preference  
 を選び、その中の画面の Show Section  
 Titles のチェックボックスにチェッ  
 クを入れておけば、いつでもタイトル  
 が表示された状態になります。



Tアイコンの絵や写真を変えるには、Alt キー (Windows) または OPTION キー (Mac) を押しながら、変更したいアイコンをクリックします。すると何とおりの絵や写真が選べるようになります。レパートリーの種類は多く、レパートリー画面の下のバーにある小さな青い本のアイコンをクリックすると、自分で持っているレパートリーのリストが出てきます。これをクリックすることでレパートリー本を選択できます。

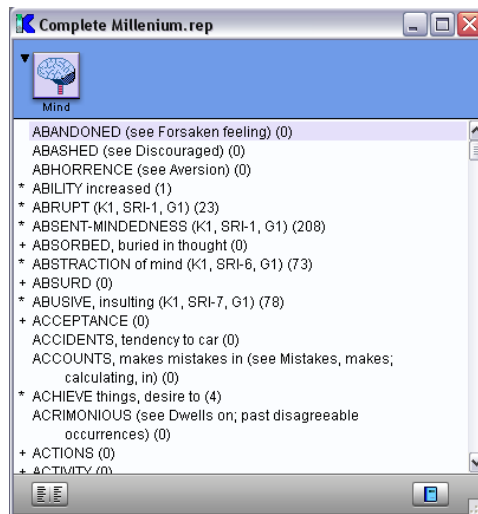
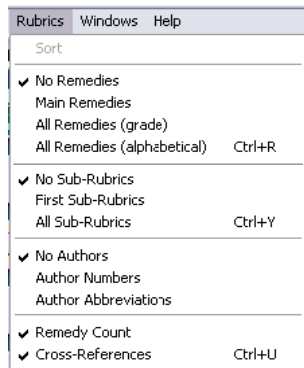
これからルブリックの説明に入る前にまず、表示設定をそろえましょう。プログラムの

いちばん上のバーの Rubric をクリックします。チェックマークが図のようになっていないことを確認してください。これも自由な設定ができますが、説明と合わせるために、今回はこの設定で説明します。

各セクションへ行くには、そのアイコンをクリックします。たとえば Mind のセクションをクリックすると Mind が開きます。

下の図は、メインルブリックが表示されています。セクション表示は上のバーのアイコンで示されています。

下のバーの左側のアイコンをクリックすると、本を開いたような 2 ページ表示になります。

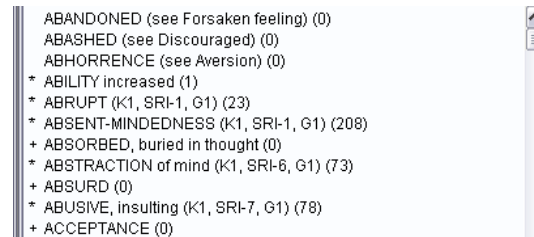


別のセクションに移るには、上のバーのアイコンをクリックしてください。アイコン左側をクリックしてもセクションリストが出てきますので移動できます。

各ルブリックに属するレメディリストは、スペースバーを押すと表示されます（はじめから表示する設定も可能です）。



### レポトリ、ルブリックの左側のサインの読み方



+ サインと \* (アスタリスク) :

いくつかのルブリックの左側には + サインやアスタリスク (\*) サインがあります。これらは、さらにこのルブリックにはサブルブリックもしくは他の情報がありますというサインです。では、+ サインやアスタリスク (\*) サインはどのように使い分けているのでしょうか？

+があるルブリックにはレメディはありません。これはさらにサブルブリックや他の情報があるということです。したがって、+ サインのルブリックはレメディがないためにクリップボードに入れることはできません。クリックして、さらに次へ進んでください。

\* (アスタリスク) サインは、このルブリックには該当するレメディがあり、さらにサブルブリックもあるという意味です。+ サインのルブリック以外のルブリックは、クリップボードにドラッグ&ドロップしたり、Enter キーを押してクリップボードに保存することができます。

+ や \*のあるルブリックは、さらに見るにはクリックするか、右→を押します。たとえば、\*ABRUPT (K1, SR-1, G1) (23) でこの操作をすると、次のような画面が出てきます。the Complete Millenium では、最初にクロスレファレンス+references, x-references (0) があれば出てきます。

クロスレファレンスは、似た表現の関連ルブリックです。

+references, x-references (0) が (0) になっているように、このままではクリップボードに保存することはできません。この後に、クロスレファレンスの移動の仕方を述べましょう。

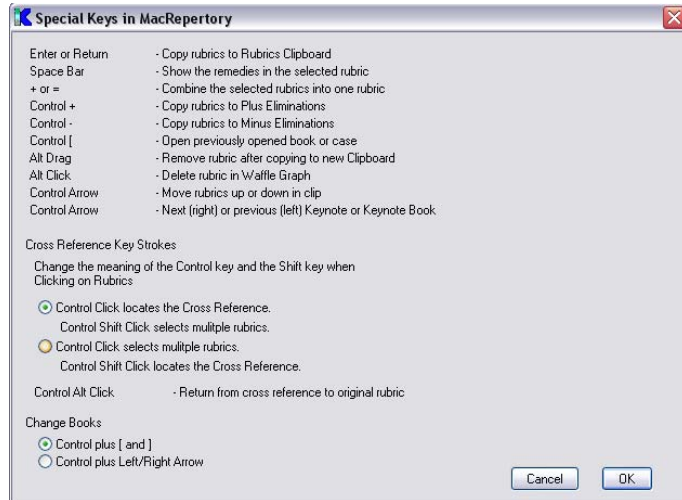
まず、クロスレファレンスの使い方を説明する前に、ショートカットの説明をします。

プログラムのメニューバーの Help をクリックして、Keyboard Shortcuts をクリック

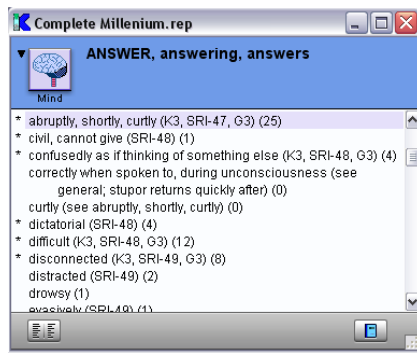
します。

キーボードショートカットのウィンドウが立ち上がります。

この設定で Control Click (PC) または Cmd Click (Mac) locates Cross Reference にチェックマークが入っていることを確認してください。確認したら、OK をクリックしてウィンドウを閉じましょう。



クロスレファレンスから、そのルブリックへ飛ぶには、Ctrl キー(PC) または CMD キー (Mac) を押しながら、マウスのカーソルをクロスレファレンスしたいルブリック上においてクリックします。



するとクロスレファレンスの実際のルブリックへと飛んでいけます。ここからクリップボードへと保存できます。

再び元のルブリックへと戻るには、Ctrl + Alt キー (PC) または CMD + Option キー (Mac) を押しながらルブリックをクリックします。

メインルブリックまで戻るには、左←を押します。

### レパトリー画面の操作法

- ・上下に動かすのは、上下の矢印キーを使います。
- ・1 ページだけ上下に動かす場合は、Ctrl キー (PC) または e CMD (Mac) を押しながら、上下の矢印キーを押します。
- ・メインルブリックからサブルブリックへ行く場合には、左→キーを押します。
- ・メインルブリックへと戻る場合には、右←キーを押します。
- ・レパトリーウィンドウの右側にあるスクロールバーを使っても上下できます。
- ・目的のルブリックの頭文字がわかっている場合には、頭文字またははじめの数文字をタイプするとそのルブリックまで飛んでいけます。
- ・目的のルブリックまでいき着いたら、そのルブリックが活性化しているのを確認して、Enter キーを押すとクリップボードに入ります。クリップボードを指定していない場合には、クリップボード A にルブリックが入ります。もちろんドラッグ&ドロップしても結構です。